

アンケート調査の概要

1 アンケート調査の目的

本アンケート調査の目的は、職場トラブル対処についての社会的ニーズの所在を明らかにすることにあつた。すなわち、本調査は、職場トラブルへの対処方法を、個別の職場や、何らかの相談先機関などの特定地点でなく、会社の内外にまたがる、社会的な広がりの中に存在する一群のニーズとして捉えることを目的として実施された。この調査では、既存の労働相談窓口（行政機関や専門家や労働組合などによる）がそれぞれの窓口単位で行ってきた職場トラブル相談の統計データなどとは異なり、地域社会単位でそうしたニーズのデータを集計し、分析している。そこに、この調査の従来への調査にはない特色がある。

現代日本においては、職場トラブルの内容は多様化し、古典的な解雇や労働条件をめぐる問題だけでなく、セクハラや職場いじめなど最近注目されることの多くなった問題（いわゆる個別労働紛争）がさまざまな形で噴出している。この調査は、それらの問題が起きた場合に一般市民がどのような相談先や情報収集先など選ぶか、といった内容を主たる設問内容としている。そして、一定地域の住民を対象とするサンプリング調査という方法によることで、これらの相談ニーズに（行政・民間それぞれにおいて）組織的に対応するための基礎データを得られるように、調査設計を行った。

すでに述べたように、調査地域として選定したのは大阪府箕面市である。箕面市は大阪府北西部にあって、北摂山系の自然環境に恵まれた人口約12万5000人の郊外都市であり、住民の所得水準は比較的が高い。また高齢化率が一部の周辺自治体（高齢化の進んだニュータウン地区などを含む市）よりも低く、その分だけ現役世代比率が高い地域だと言える。この調査で本地域を選定した理由としては、一大産業都市である大阪市の通勤圏であるため、大阪都心の労働状況がデータに比較的正確に反映されていると推測されることのほか、特定企業の城下町や特定産業の集積地でないことを挙げることができる。それらとあわせて、調査の拠点である大阪大学に近接している点も考慮した。すなわち、大阪大学から調査地へと足をのばしやすいこと、そして、大学の地元であるというアドバンテージを活かして、回収率の若干の上乗せができることをも期待した。

なお、この調査における分析が最終的に念頭に置くのは、箕面市というローカルな社会ではなく、日本社会全体である。そのため、本来であれば、全国規模での住民サンプリン

グ調査を行うのが理想的であった。しかし、それを行うことは、予算などの制約があり、困難であった。他方、今回調査地域に選定した箕面市を日本社会の完全な縮図（標本）と見なすのは、必ずしも理想的とは言えないけれども、次善の策として遜色はないと考えた。上述のような地域特性を念頭に置いたうえで調査データを取り扱えば、ある程度解釈上の誤解を避けることもできる。そこで、本調査では、日本社会全体の傾向を推測する一つの手がかりとして、箕面市に郊外都市としての一定の代表性があると見なして調査を進めた。

2 アンケート調査の方法と回収結果

アンケート調査の方法と回収結果は、大要つぎの通りである。

調査名称	: 『職場トラブルの対処方法に関する調査』
調査実施者	: 「大阪大学・職場トラブル対処に関する研究会」 (研究会代表: 大阪大学助教授 福井 康太)
調査対象	: 箕面市在住で選挙権を有する 20 歳以上男女 (約 10 万人)
サンプリング方法	: 箕面市の選挙人名簿を用いた等間隔抽出法 (選挙権のある 30 人ごとに 1 人ずつ抽出)
調査票の記入方法	: 自記式
配布と回収の方法	: 郵送法
配布日	: 2006 年 6 月 1 日
回収期限	: 同 6 月 30 日
配布した票数	: 3,355 票
回収した票数	: 全回収数 682 票 (回収率 20.3%) うち有効回収数 655 票 (有効回収率 19.5%)

なお、調査実施時には、「職場トラブルについて考える」というホームページを開設し、広く調査への協力をもとめ、回収率を高めることに努めた。現在、同ホームページには、アンケート調査結果の概要等の掲載を行っている。

文責 福井 康太